

「湯之尾小学校の湯之尾神社の神舞伝承活動の取組」

1 学校名

伊佐市立湯之尾小学校

2 学年・人数

小学1年生3人 小学2年生1人 小学3年生1人 小学6年生4人
(計9人)

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

平成30年10月初め～11月21日

湯之尾神社「舞庭」及び神社隣の集会施設

(2) 発表の日時・場所

平成30年11月23日(金) 湯之尾神社「豊祭」の日に奉納

湯之尾神社「舞庭」

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

(1) 名称

ゆ の お じ ん じ ゃ か ん ま い
湯之尾神社の神舞 (県指定無形民俗文化財)

(2) 由来

湯之尾神舞の起源の詳細は不明だが、室町時代の後期と推定され、500年以上の歴史がある。湯之尾神舞は里神楽に属し、肥後と日向の両国にまたがる九州中央山岳地帯の高千穂を中心に伝承された神楽で、日向地方の影響を受け伝わったとされている。湯之尾郷中の人々が、五穀豊穰・無病息災を祈願するため、旧暦 霜月 満月の夜、夜を徹して35番演舞奉納されていた。現在では26番が継承されており、11月23日の「豊祭」の日に奉納している。

(3) 構成等

現在、継承されている26番の舞は一つ一つの舞が異なり、舞人も小学1年生から50歳代までと幅も広く、最大5人の舞まであり、持つ道具や装束もそれぞれ違っている。舞人・楽人を合わせれば60人程になる。

5 保存会や地域との連携の具体

神舞は構成等が多種多様で、現在は保存会を中心に教職員や児童生徒、保護者を含め地域の協力のもと、地域ぐるみで実施されている。

保存会は幅広い人々が参加しており、先輩から後輩へと伝承する形式をとっている。練習時の挨拶(来たときの挨拶・練習を始める時・終わる時の挨拶等)・履物のぬぎ方等、家庭で経験できないようなことも先輩達から伝えている。

小学1年生になったら「花舞」と言う神舞を舞うことができることを、児童本人だけでなく保護者や祖父母、地域の方々も楽しみにしている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

小学1年生で神舞に参加して興味をもつことによって、その後自発的に参加

する児童が増えている。

また、幼少期に参加したことで、神舞をしたという体験をもつ成人が協力体制を作り、練習や奉納等がスムーズに実施できている状況である。

今後は、総合的な学習の時間に伝統と文化という学習内容で教育課程に位置付けていきたい。

7 取組の様子



【1, 2年生による「花舞」】



【6年生による住吉神楽】



【6年生と中学生による四方神楽】



【練習 打合せ】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

参加児童：今年で5回目の参加で、おろそかになったところを何度も注意されながら繰り返し練習しました。本番では、何度も練習したので、あまり緊張せずにとんとんと舞うことができました。たくさんの人から視線を浴びる経験はなかなかできません。すごい経験をしたのだと今しみじみと思います。

保護者：子供二人、神舞に参加させていただいています。子供たちの成長に感謝し感動を感じ、私自身も子供たちと楽しみながら、これからも神舞に携わっていきたいと思います。

保存会：毎年ありがたいことで、湯之尾神舞に参加して舞いたいという子どもたちが約2か月の間練習に励んできました。この素晴らしい郷土芸能に携わり、興味をもってくれることはうれしい限りです。後生に残していく担い手になると思います。

教職員：約500年続く神舞の伝統に触れること、地域の方々と協力して新たな歴史を作り上げていけること。これらは、とても誇らしい体験である。これからも、地域と学校が一体となり、神舞が絶えず続いていくことを願っている。